

見逃しがちな認知症の初期の症状
切ったばかりの電話の相手の名前を忘れる
料理・片付け・計算などのミスが多くなる
約束の日時・場所を間違えるようになる
慣れているところで道に迷う
ささいなことで怒りっぽくなる
薬の管理ができなくなる
水道の閉め忘れやガスの消し忘れが増える
テレビ番組の内容が理解できなくなる

※該当する項目があれば専門医へ相談を。

●家族が認知症であることを近所に伝え、協力を求めましょう。

●もし友人が認知症になっても、今までと同じように話をしたり、町内会行事などに誘ったりしましょう。

認知症の人にとって誰かと楽しく過ごすことが生きる意欲を生み出します。

「人」は誰かの世話になり、誰かの世話をして、お互いに助け合いながら生きていきます。どんな人も住み慣れたまちでいきいきと生活が



地域包括支援センターの職員

●認知症に関する相談窓口●

窓口名	電話番号	窓口名	電話番号
介護保険課	<71>2226	在宅介護支援センター松井	<72>5112
社会福祉課	<71>2223	在宅介護支援センター安寿の郷	<76>6135
市保健センター	<76>1133	在宅介護支援センター小川の里	<73>3535
安城市地域包括支援センター	<77>2945	在宅介護支援センター八千代住吉	<97>8069
安城市中部地域包括支援センター	<71>0077	在宅介護支援センターあんのん館	<71>3173
在宅介護支援センター更生	<77>9948	在宅介護支援センター南部	<92>0189
在宅介護支援センター八千代	<97>1818	認知症の人と家族の会	0562<31>1191

■**早めの相談を**

認知症は誰もがなり得る脳の病気です。「自分は大丈夫」「うちの親に限って」となかなか気づかなかつたり、言い出せず症状が悪化してしまうこともあります。家事や仕事の失敗が目立つようになり、自分自身でおかしいなと感じることもあります。「おかしいな」と感じたら早めに医療機関や福祉相談窓口へ相談しましょう。

■**支え合う**

認知症の介護は思っている以上に大変です。一人だけ・家族だけで抱え込まず、いろいろな人に相談してみましょう。介護サービスや福祉サービスを利用することも大切です。よりよい介護の環境をつくることで、認知症の症状の緩和や介護者の精神的な負担の軽減にもつながります。

■**地域包括支援センター**

同センターでは、保健師・主任ケアマネジャー・社会福祉士が、高齢者の生活を総合的に支えるため、相談業務や介護予防プランの作成をしています。認知症でお困りのときは、ぜひ相談してください。

できる安城市であってほしいと思います。

「おかしいな」と思ったならまずは相談を

アルツハイマー病の主な症状
しまい忘れ・置き忘れ
同じことを何度も言う
日時・場所がわからない
計算ができない
衣服の着かたがわからない
料理ができない

■**アルツハイマー病とは**

アルツハイマー病は、認知症を生じる原因として最も多い病気です。アルツハイマー病では、同じ事を何回も言うなどの記憶障害は必ずみられる症状です。そして、これらの症状が進行・悪化していきます。3年前よりも1年前、1年前よりも現在と

■**認知症とは**

認知症は、一度獲得した知識や技術などが、なんらかの原因で低下し、社会生活や家庭生活、仕事などに支障をきたしてきた状態を指します。主な原因としては、アルツハイマー病と脳血管性認知症、レビー小体型認知症の3つがあります。

いうように症状が進んでいくのが特徴のひとつです。一方、アルツハイマー病とは違い、年齢に伴う心配がいらぬ物忘れは、何年経っても症状は進行・悪化しません。

■早期発見が重要

認知症で大切なことは、早期発見・早期治療です。家族の人が「あれ、おかしいな?」「認知症かもしれない」と感じるときは、かかりつけ医や物忘れ外来のある医療機関を早めに受診してください。認知症患者を早期に診断することで、薬物療法とその後の上手な介護、適切な対応が可能となります。

安城市内の物忘れ外来	
病院名	電話番号
八千代病院	<97>8111
安城更生病院	<75>2111

■治療を考える

治療としては、薬物療法と非薬物療法があります。認知症の症状が進行するのを抑える薬剤

として、現在使用できるものは、ドネペジルだけです。

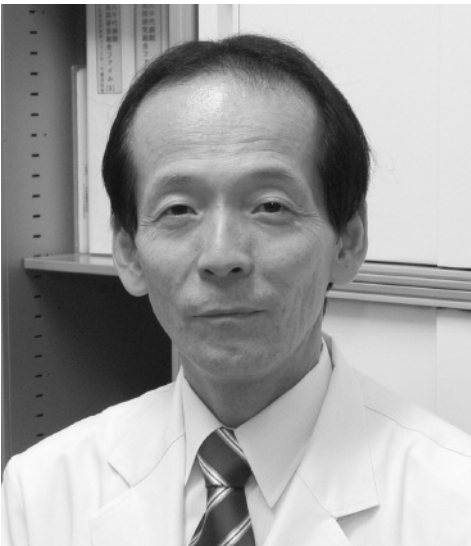
薬以上に大切なことは、わたしたちが認知症という状態を理解し、認知症に進展した人の生活を支援することです。上手な介護、適切な対応が周囲の人々に求められています。

■予防できないか

アルツハイマー病を生じる原因として、加齢と遺伝が挙げられています。このふたつは根本的な治療ができないものです。このほかに最近、アルツハイマ

ー病の発症に、生活習慣病(高血圧や糖尿病、高脂血症など)が関与していることが明らかになってきました。例えば、40歳代・50歳代で高血圧の人は、そうでない人と比べて70歳代にアルツハイマー病を発症する危険性が高いことが明らかになっています。

糖尿病や高脂血症でも同様の現象がみられます。食生活の改善(魚や緑黄色野菜の摂取)とともに、生活習慣病の予防や治療が認知症予防につながります。



八千代病院神経内科部長
川畑信也医師

日本認知症学会・日本認知症ケア学会に所属。物忘れ外来(平成20年6月に開設)の主治医として多くの認知症患者を診察している。